

令和2年度下期 新潟市景況調査【概要版】

調査結果の総括

新潟市内事業所の「業況判断」をみると、令和2年7～9月期は同4～6月期から改善し、続く令和2年10～12月期も同7～9月期からわずかながら改善した。足元の令和3年1～3月期は悪化する見込みである。先行きの令和3年4～6月期は同1～3月期からやや改善するものの、低水準で推移する見通しとなっている。

今期における他の主要項目のBSIをみると、「生産・売上」、「受注」、「出荷量」はいずれも上昇し、「資金繰り」は改善した。在庫では「製・商品在庫」、「原材料在庫」とも不足超に転じた。価格では「仕入価格」は前期から概ね横ばいで推移し、「販売価格」は上昇した。また雇用では「所定外労働時間」、「1人当たり人件費」はともに上昇した。

経営上の問題については、「生産・受注・売上げ不振」の割合が最も高く、以下「人材不足」、「先行き見通し難」、「労働力不足」と続いている。

業界の動向としては、“巣ごもり需要”の取り込みや各種支援策の効果などから、一部の業種では売上が増加したとの声がある一方、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、幅広い業種で受注量や客数の減少から業況は厳しい状況にあるとの声が聞かれた。さらに先行きの見通しが立たず、さらなる業況悪化を懸念する声が多数みられた。

1. 調査の概要	1
2. 回収結果	1
3. 調査結果	
(1) 景況天気図	2
(2) 業況判断	3
(3) 生産・売上	4
(4) 受注	4
(5) 出荷量	5
(6) 資金繰り	5
(7) 在庫	6
(8) 価格	7
(9) 雇用	8
(10) 設備投資	9
(11) 経営上の問題	10
(12) 調査結果 (BSI) の業種別総括表	11
(13) 事業所、業界の動向	13

※注 文中において、「前期」「今期」「来期」については、特に説明がない限り、以下の時期である。

・ 前期 R2.1～R2.6月期 ・ 今期 R2.7～R2.12月期 ・ 来期 R3.1～R3.6月期

1. 調査の概要

- (1) 調査地域：新潟市全域
- (2) 調査対象：新潟市内の事業所（個人事業主を含む）
- (3) 標本数：2,000事業所
- (4) 抽出方法：総務省「事業所母集団データベース」から業種別・従業者規模別に無作為抽出
- (5) 調査方法：郵送法（調査票の配付，回収とも）
- (6) 調査期間：令和3年1月5日～1月19日

[業種別・従業者規模別標本数]

	従業者規模区分			計
	1～4人	5～19人	20人以上	
	標本数	標本数	標本数	標本数
製造業	111	111	111	333
非製造業	557	555	555	1,667
建設業	111	111	111	333
運輸・通信業	111	111	111	333
卸・小売業	112	111	111	334
飲食・宿泊業	111	111	111	333
サービス業	112	111	111	334
計	668	666	666	2,000

2. 回収結果

	標本数	有効回収数	従業者規模区分			回収率
			1～4人	5～19人	20人以上	
総数	2,000	815	278	231	306	40.8%
製造業	333	184	70	51	63	55.3%
非製造業	1,667	631	208	180	243	37.9%
建設業	333	164	45	57	62	49.2%
運輸・通信業	333	106	25	29	52	31.8%
卸・小売業	334	97	27	28	42	29.0%
飲食・宿泊業	333	91	42	25	24	27.3%
サービス業	334	173	69	41	63	51.8%

【集計・分析にあたって】

- (1) 数値(%)は小数点第2位以下を四捨五入しており，総数と内訳の合計は必ずしも一致しない。
- (2) BSI（Business Survey Index）は，総回答数に対する「良い・増加・過剰・上昇・好転」，「普通・不変・適正」，「悪い・減少・不足・低下・悪化」の率(%)を求め，下記計算により算出した。

BSIがマイナスになる場合は「▲」または「-」と表記している。

BSI=「良い・増加・過剰・上昇・好転」割合(%)－「悪い・減少・不足・低下・悪化」割合(%)

3. 調査結果

(1) 景況天気図

【業況判断(全体)】

	R2年7～9月期(実績)	R2年10～12月期(実績)	R3年1～3月期(見込み)	R3年4～6月期(見通し)
全体				
BSI	 (▲47.9)	(▲43.6)	 (▲56.9)	(▲53.8)

【従業者規模別】

	R2年7～9月期(実績)	R2年10～12月期(実績)	R3年1～3月期(見込み)	R3年4～6月期(見通し)
4人以下				
BSI	 (▲55.8)	(▲55.4)	 (▲65.4)	(▲61.2)
5人～19人				
BSI	 (▲41.9)	(▲36.0)	 (▲55.4)	(▲55.4)
20人以上				
BSI	(▲45.1)	(▲38.5)	 (▲50.4)	(▲46.1)

【業種別】

	R2年7～9月期(実績)	R2年10～12月期(実績)	R3年1～3月期(見込み)	R3年4～6月期(見通し)
製造業計				
BSI	 (▲49.5)	(▲45.1)	 (▲57.6)	(▲52.7)
非製造業計				
BSI	 (▲47.4)	(▲43.1)	 (▲56.7)	(▲54.2)
建設業				
BSI	 (▲32.9)	(▲26.2)	 (▲43.9)	(▲48.2)
運輸・通信業				
BSI	(▲50.9)	(▲49.0)	(▲55.6)	(▲51.0)
卸・小売業				
BSI	 (▲47.5)	(▲46.4)	 (▲66.0)	(▲57.7)
飲食・宿泊業				
BSI	(▲82.4)	(▲73.6)	 (▲90.1)	(▲82.4)
サービス業				
BSI	 (▲40.5)	(▲37.6)	(▲46.9)	(▲45.0)

【凡例】

天気マーク					
BSI水準	(20.1～)	(0.1～20.0)	(0.0～▲20.0)	(▲20.1～▲40.0)	(▲40.1～)
矢印マーク					
BSI前期比	10ポイント以上増加	10ポイント以上減少			

(2) 業況判断

ポイント

- 令和2年7～9月期の業況感を示した業況BSI（「良い」－「悪い」）は▲47.9と、同4～6月期の▲60.1から12.2ポイント改善した。続く令和2年10～12月期は▲43.6と、同7～9月期からさらに4.3ポイント改善した。
- 足元の令和3年1～3月期は▲56.9となり、令和2年10～12月期から13.3ポイント悪化する見込みとなっている。
- 先行きについてみると、令和3年4～6月期は▲53.8と、同1～3月期から3.1ポイント改善するものの、依然低水準で推移する見通しとなっている。

図1-1 業況判断BSI

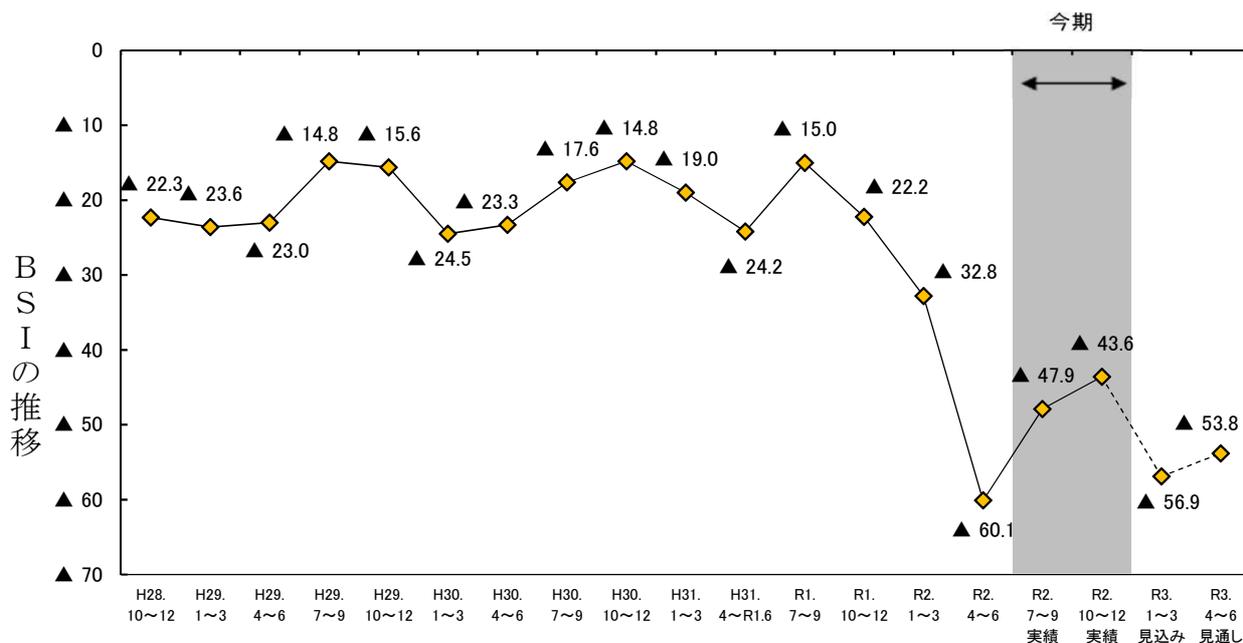
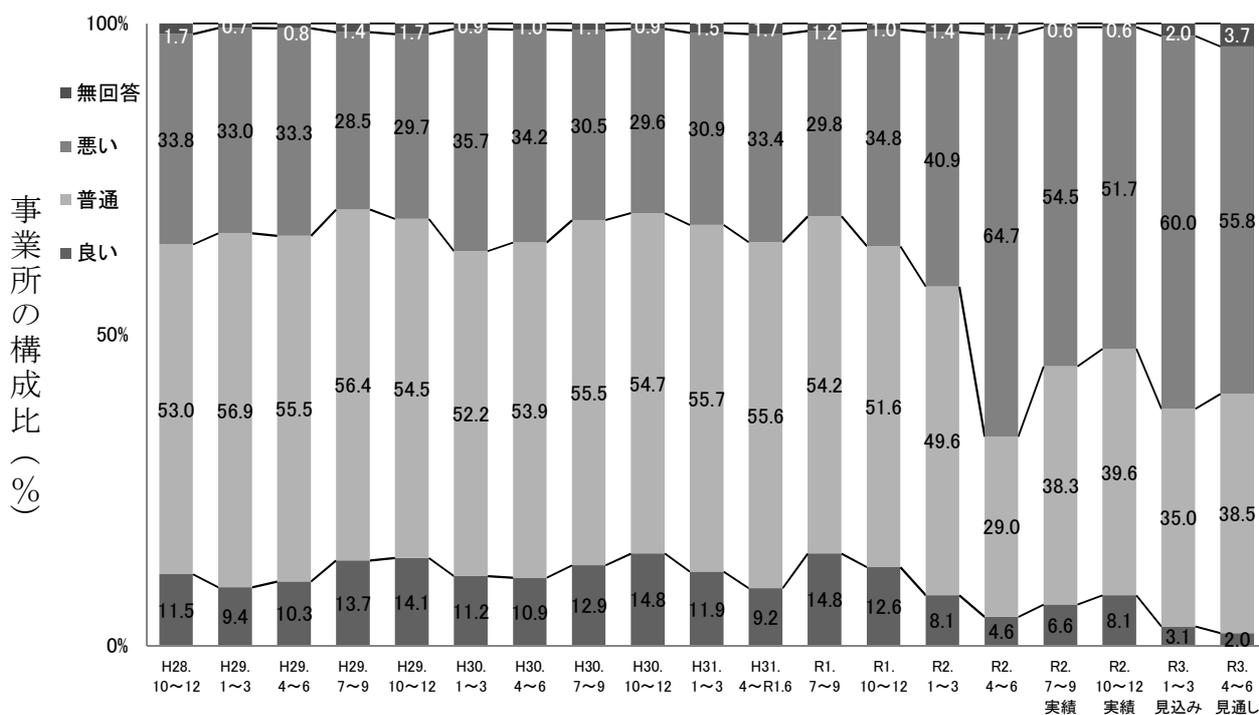


図1-2 業況判断の回答割合

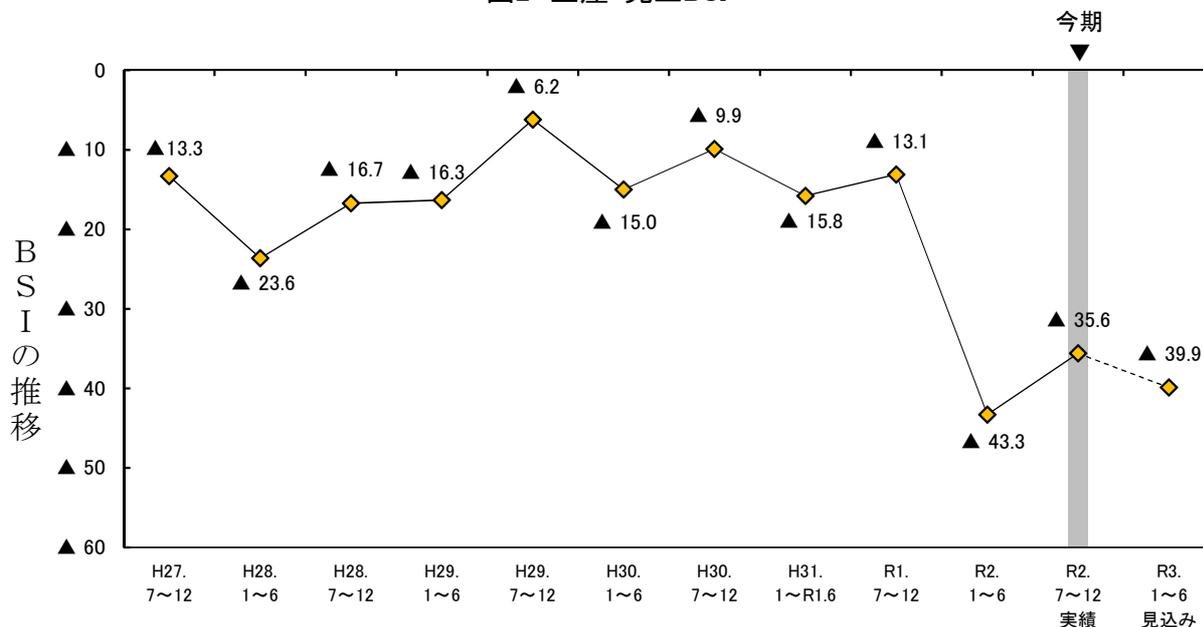


(3) 生産・売上

ポイント

- ・ 今期の生産・売上BSI（「増加」－「減少」）は▲35.6と、前期（▲43.3）から7.7ポイント上昇した。来期は▲39.9と、今期から4.3ポイント低下する見込みとなっている。

図2 生産・売上BSI

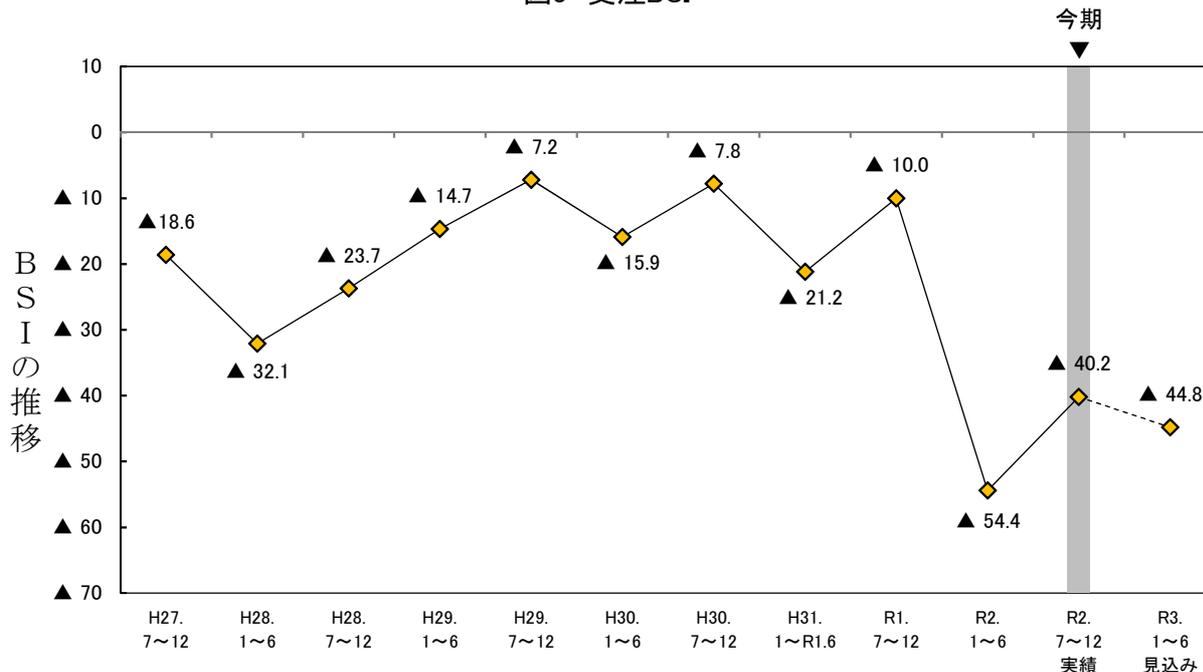


(4) 受注（製造業・建設業のみ）

ポイント

- ・ 今期の受注BSI（「増加」－「減少」）は▲40.2と、前期（▲54.4）から14.2ポイント上昇した。来期は▲44.8と、今期から4.6ポイント低下する見込みとなっている。

図3 受注BSI

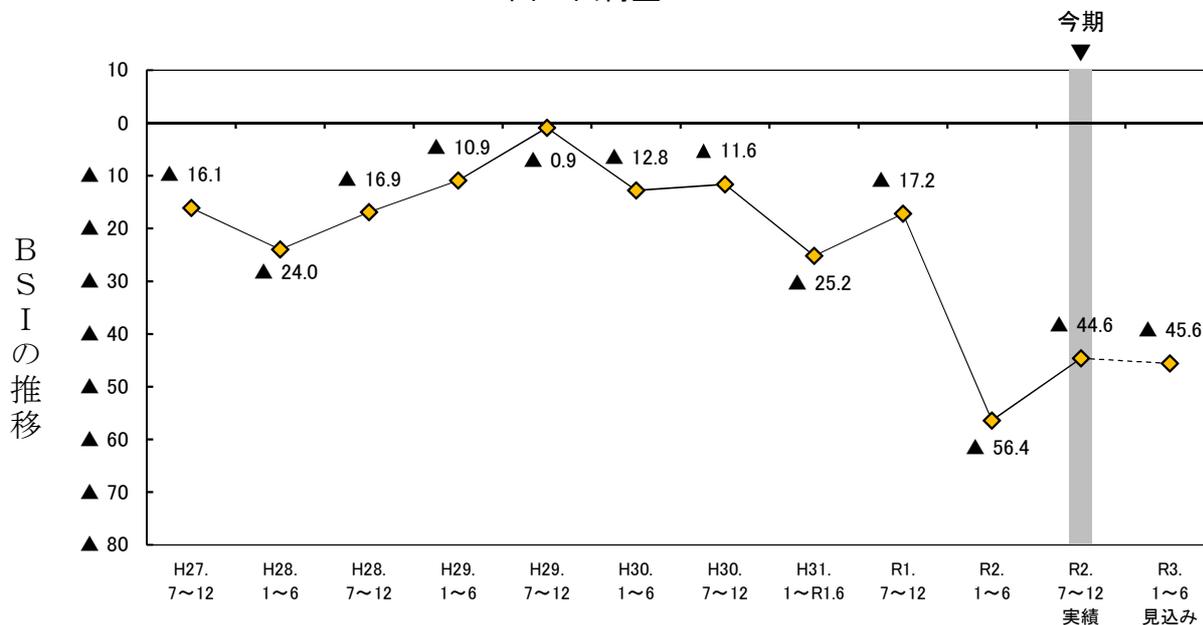


(5) 出荷量(製造業のみ)

ポイント

- ・ 今期の出荷量BSI(「増加」-「減少」)は▲44.6と、前期(▲56.4)から11.8ポイント上昇した。来期は▲45.6と、今期とほぼ同水準で推移する見込みとなっている。

図4 出荷量BSI

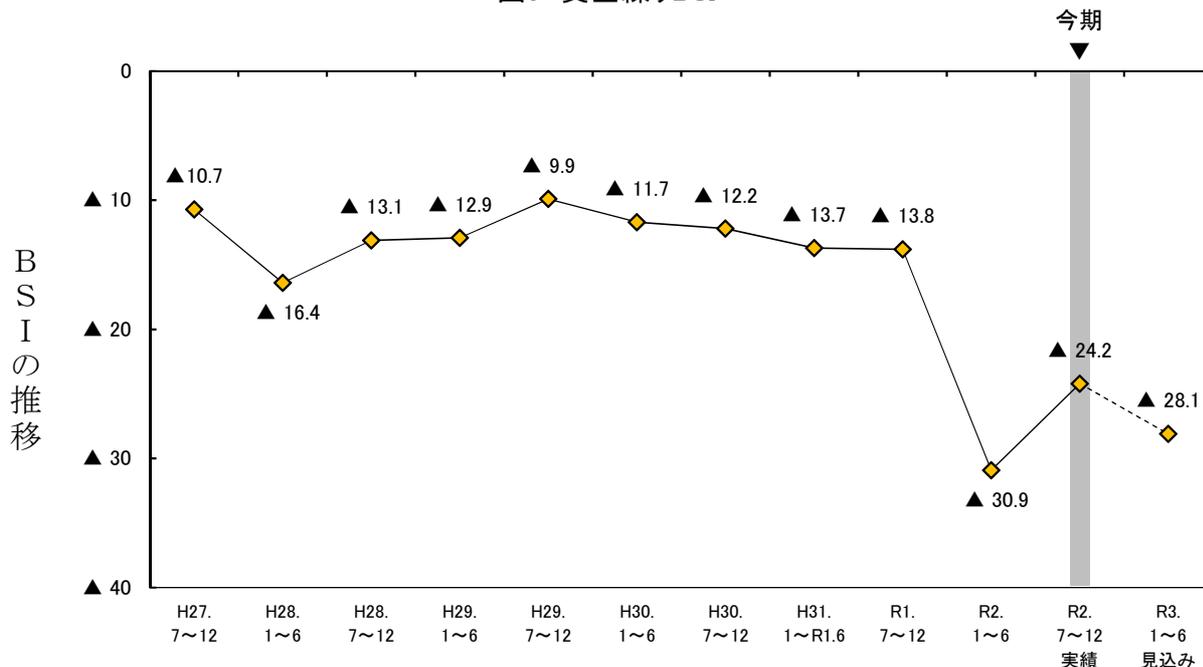


(6) 資金繰り

ポイント

- ・ 今期の資金繰りBSI(「好転」-「悪化」)は▲24.2と、前期(▲30.9)から6.7ポイント改善した。来期は▲28.1と、今期から3.9ポイント悪化する見込みとなっている。

図5 資金繰りBSI



(7) 在庫(原材料在庫は製造業のみ)

ポイント

- 今期の製・商品在庫BSI(「過剰」-「不足」)は▲0.4と、前期(2.9)から3.3ポイントト低下し、不足超に転じた。来期は▲1.9と、今期からさらに1.5ポイント低下する見込みとなっている。
- 今期の原材料在庫BSI(「過剰」-「不足」)は▲1.7と、前期(1.8)から3.5ポイントト低下し、不足超に転じた。来期は▲2.7と、今期とほぼ同水準で推移する見込みとなっている。

図6-1 製・商品在庫BSI

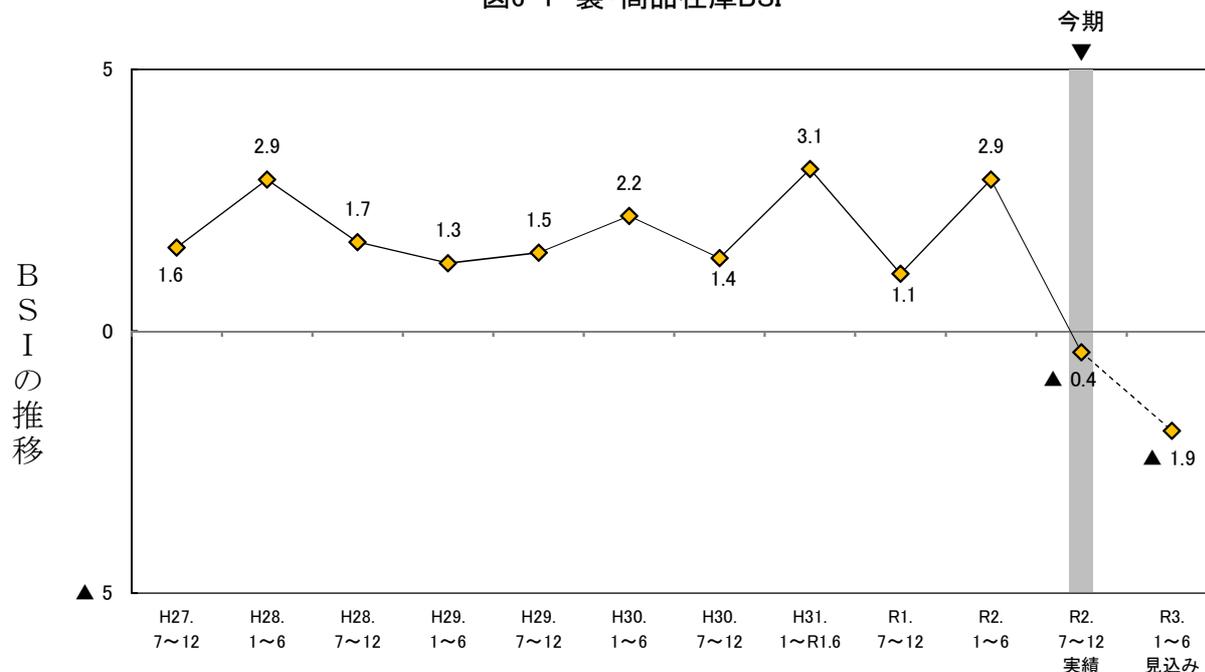
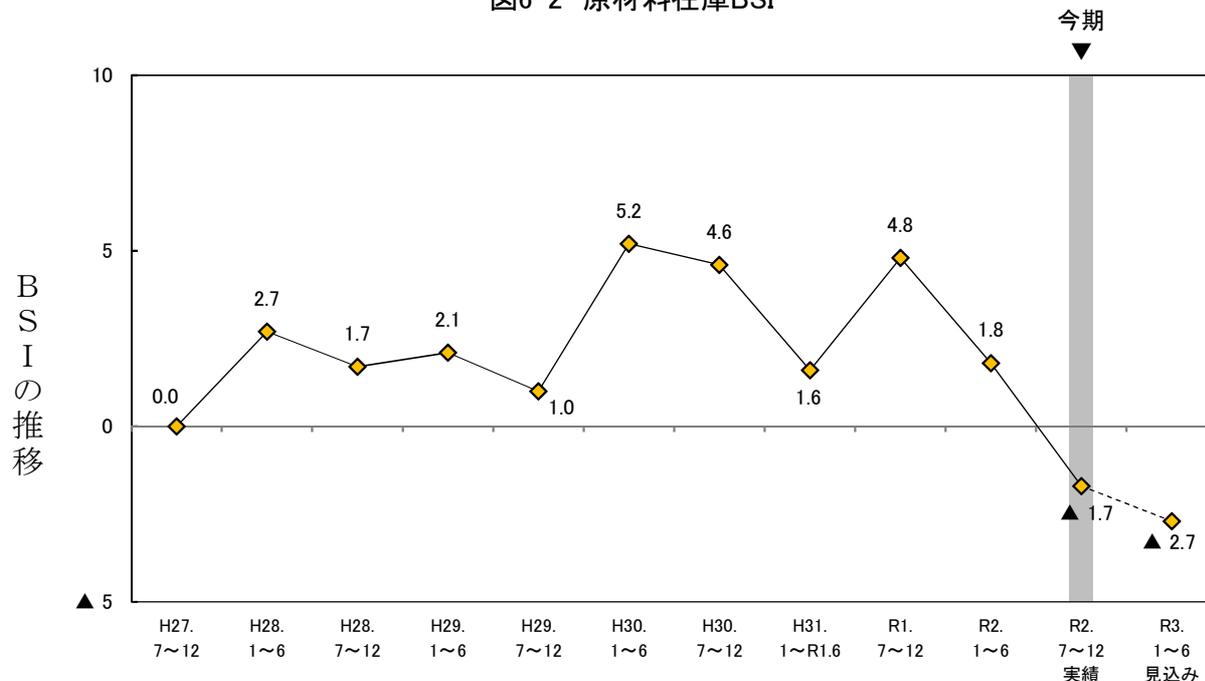


図6-2 原材料在庫BSI



(8) 価格

ポイント

- 今期の仕入価格BSI（「上昇」－「低下」）は3.6と、前期（3.9）からほぼ同水準で推移した。来期は4.7と、今期からわずかに上昇する見込みとなっている。
- 今期の販売価格BSI（「上昇」－「低下」）は▲9.8と、前期（▲16.5）から6.7ポイント上昇した。来期は▲11.8と、今期から2.0ポイント低下する見込みとなっている。

図7-1 仕入価格BSI

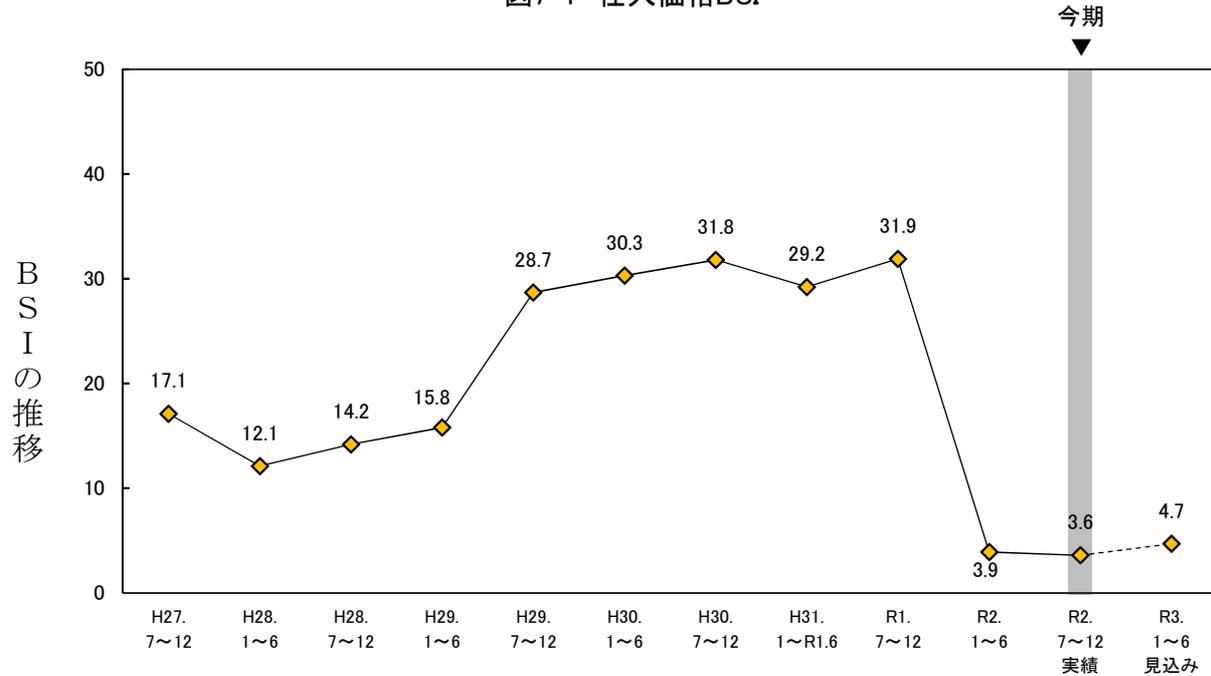
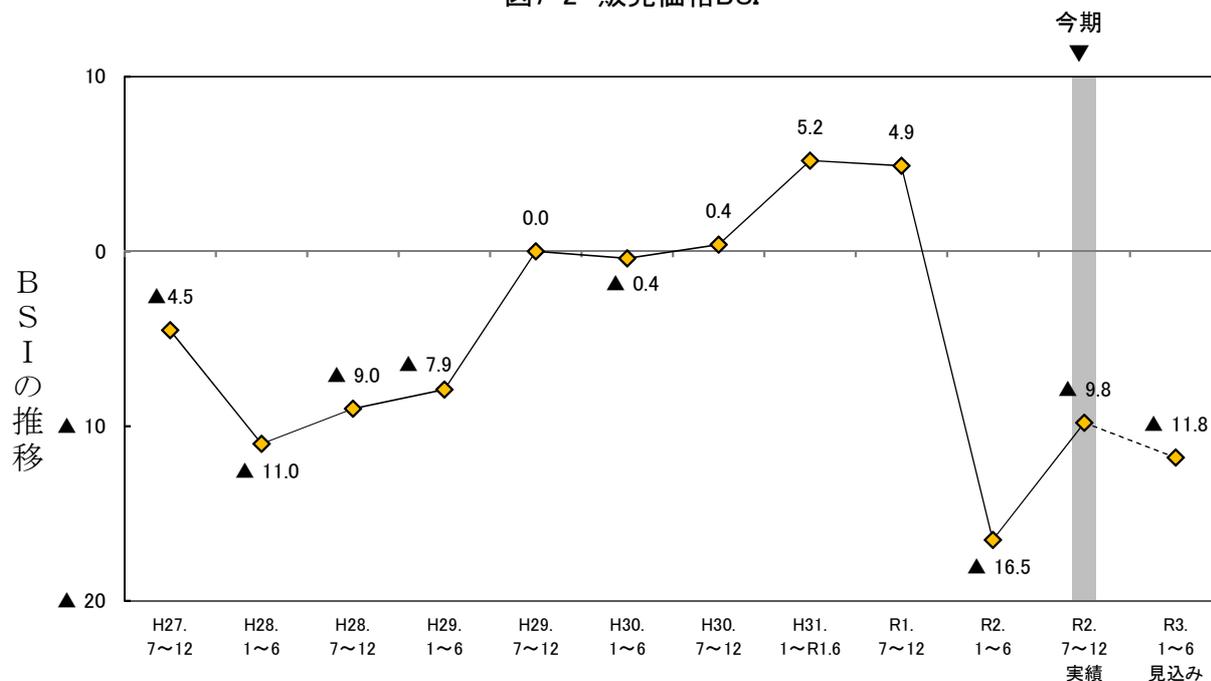


図7-2 販売価格BSI



(9)雇用

ポイント

- ・ 今期の所定外労働時間BSI（「増加」－「減少」）は▲23.1と、前期（▲32.4）から9.3ポイント上昇した。来期は▲22.7と、今期とほぼ同水準で推移する見込みとなっている。
- ・ 今期の1人当たり人件費BSI（「増加」－「減少」）は▲1.7と、前期（▲4.4）から2.7ポイント上昇した。来期は▲2.2と、今期とほぼ同水準で推移する見込みとなっている。

図8-1 所定外労働時間BSI

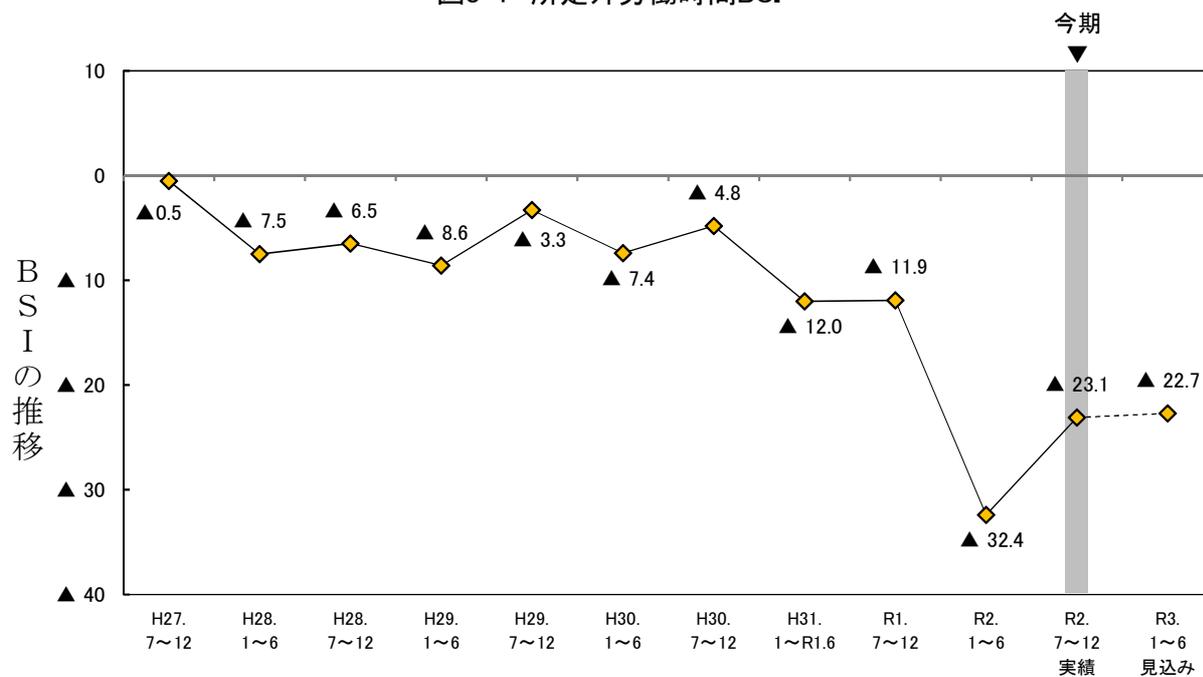
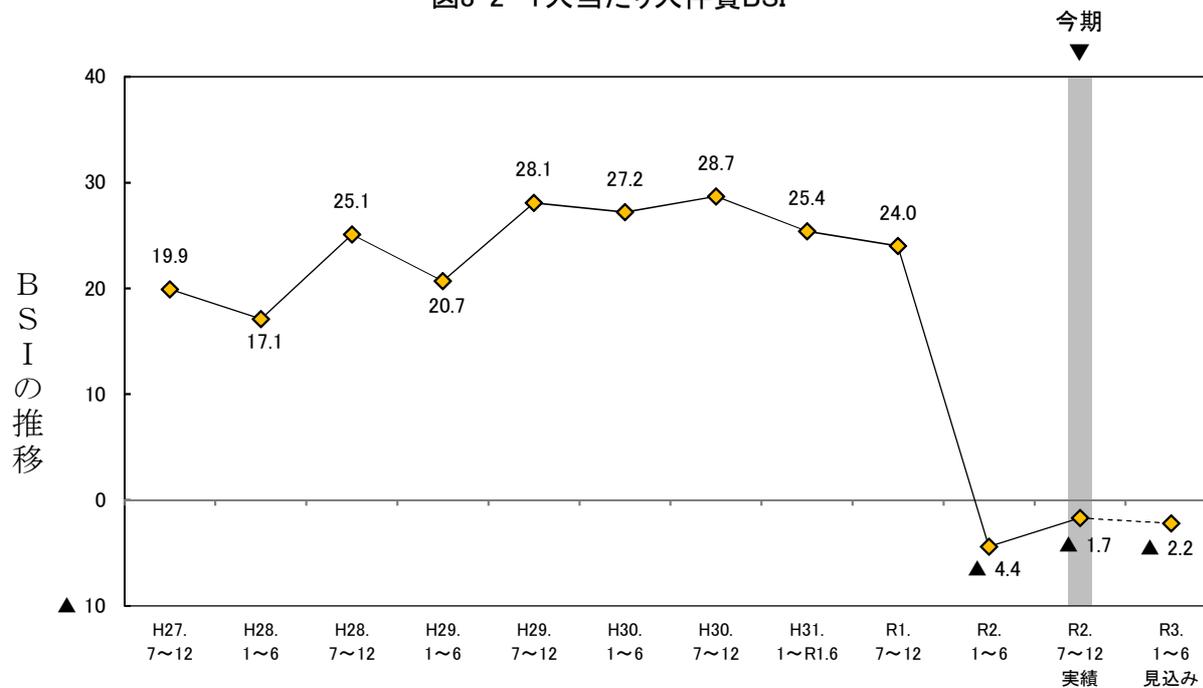


図8-2 1人当たり人件費BSI



(10)設備投資

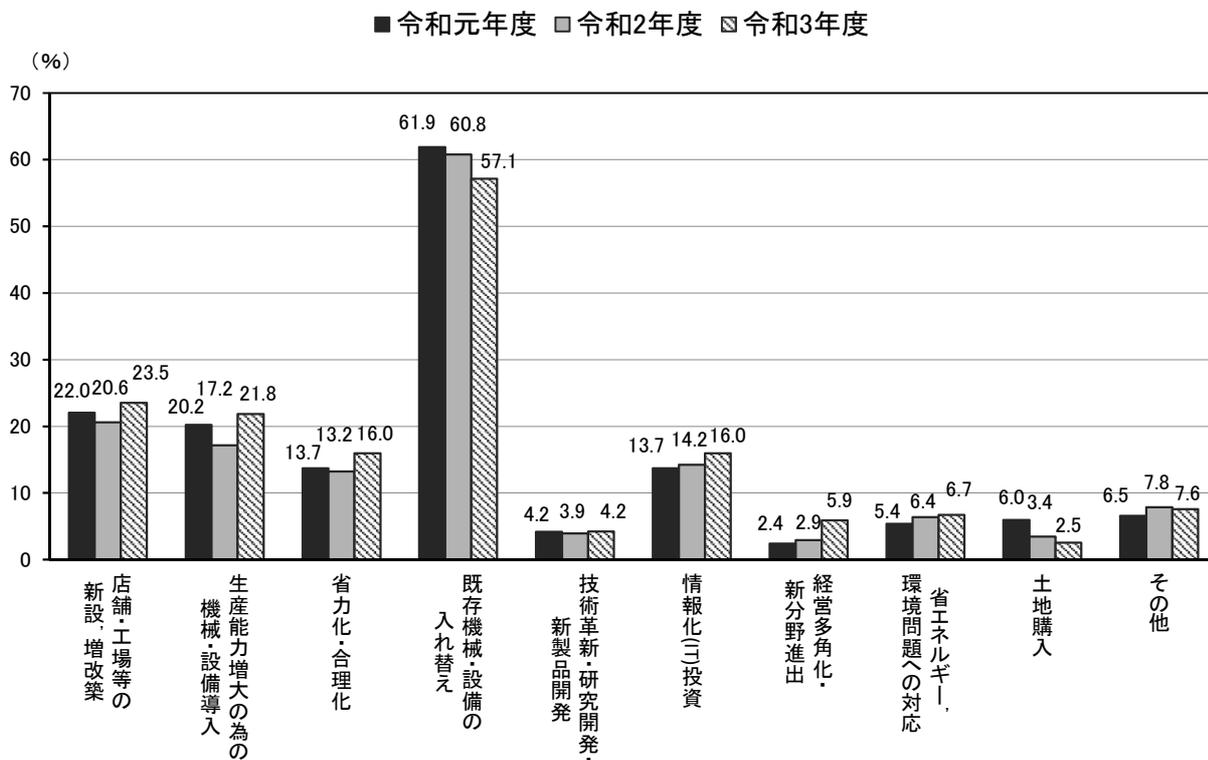
ポイント

- 令和2年度における設備投資の実施事業所割合（実績見込み）は29.0%と、令和元年度の実績（23.5%）から5.5ポイント上昇する見込みとなっている。令和3年度（計画）は17.0%と、令和2年度から12.0ポイント低下する見通しとなっている。
- 令和2年度の設備投資の目的（複数回答）としては、「既存機械・設備の入れ替え」が60.8%と最も高く、次いで「店舗・工場等の新設、増改築」（20.6%）、「生産能力増大の為の機械・設備導入」（17.2%）、「情報化（IT）投資」（14.2%）などとなっている。

表1 設備投資の実施事業所割合と設備投資額の前年度比増減率

	設備投資の実施事業所割合			設備投資額の前年度比増減	
	令和元年度 実績	令和2年度 実績見込み	令和3年度 計画	令和2年度/令和元年度	令和3年度/令和2年度
全体	23.5%	29.0%	17.0%	27.0%	▲ 88.8%
【従業者規模別】					
4人以下	9.8%	16.2%	5.0%	31.3%	▲ 81.3%
5人～19人	19.0%	28.8%	10.0%	250.0%	▲ 63.3%
20人以上	36.4%	38.2%	30.5%	24.0%	▲ 89.7%
【業種別】					
製造業計	28.3%	36.4%	19.4%	▲ 62.2%	▲ 36.9%
非製造業計	21.9%	26.7%	16.3%	68.0%	▲ 94.1%
建設業	26.6%	27.6%	20.6%	▲ 17.5%	▲ 45.6%
運輸・通信業	28.6%	34.9%	27.1%	72.7%	▲ 98.0%
卸・小売業	16.7%	20.5%	13.4%	101.2%	▲ 84.7%
飲食・宿泊業	16.2%	38.9%	10.8%	591.0%	▲ 89.8%
サービス業	19.3%	18.7%	10.1%	47.1%	▲ 42.4%

図9 設備投資の目的（複数回答）

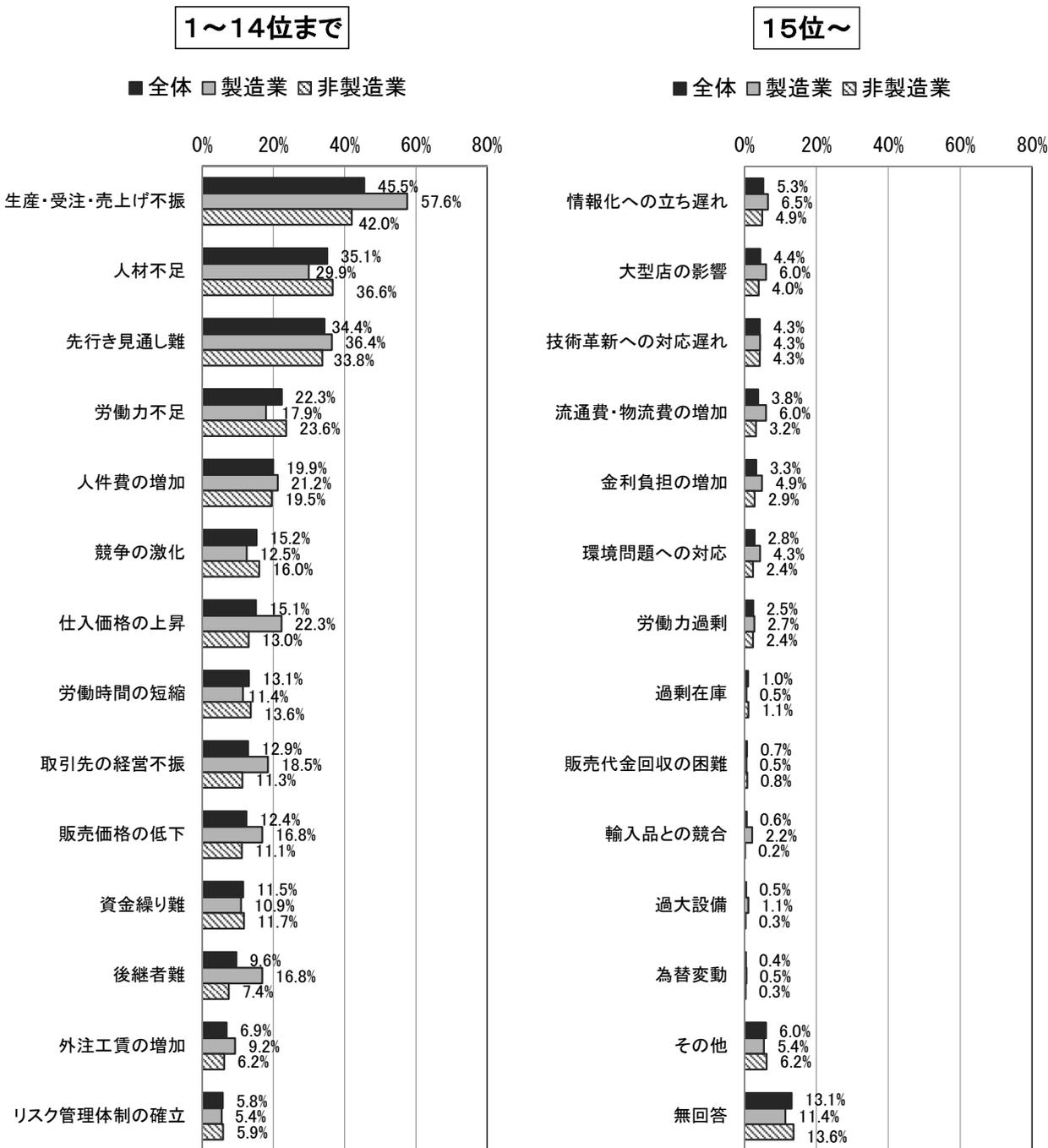


(11) 経営上の問題

ポイント

- 経営上の問題（複数回答）についてみると、全体では「生産・受注・売上げ不振」（45.5%）の割合が最も高く、以下「人材不足」（35.1%）、「先行き見通し難」（34.4%）、「労働力不足」（22.3%）と続いている。
- 業種別にみると、製造業では「生産・受注・売上げ不振」（57.6%）の割合が特に高く、以下「先行き見通し難」（36.4%）、「人材不足」（29.9%）と続いている。
- 非製造業では「生産・受注・売上げ不振」（42.0%）の割合が最も高く、以下「人材不足」（36.6%）、「先行き見通し難」（33.8%）と続いている。

図10 経営上の問題(複数回答)



(12) 調査結果 (BSI) の業種別総括表

<p>製造業</p>	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年7～9月期の業況判断BSIは▲49.5と、同4～6月期 (▲59.9) から10.4ポイント改善し、続く令和2年10～12月期は▲45.1と、さらに4.4ポイント改善した。足元の令和3年1～3月期は▲57.6と、令和2年10～12月期から12.5ポイント悪化する見込みとなっている。先行きについてみると、令和3年4～6月期は▲52.7と、同1～3月期から4.9ポイント改善するものの、依然低水準で推移する見通しとなっている。 今期の生産・売上BSIは▲48.4と、前期 (▲59.5) から11.1ポイント上昇した。来期は▲47.8と、今期とほぼ同水準で推移する見込みとなっている。 今期の受注BSIは▲46.1と、前期 (▲53.7) から7.6ポイント上昇した。来期は▲40.8と、さらに5.3ポイント上昇する見込みとなっている。 今期の製・商品在庫BSIは▲4.3と、前期 (2.2) から6.5ポイント低下し、不足超に転じた。来期は▲4.4と、今期とほぼ同水準で推移する見込みとなっている。 今期の仕入価格BSIは7.0と、前期 (1.3) から5.7ポイント上昇した。今期の販売価格BSIは▲14.7と、前期 (▲20.7) から6.0ポイント上昇した。 今期の資金繰りBSIは▲29.9と、前期 (▲39.2) から9.3ポイント改善した。来期は▲33.7と、今期から3.8ポイント悪化する見込みとなっている。 令和2年度における設備投資の実施事業所割合は36.4%と、前年度 (28.3%) から8.1ポイント上昇する見込みとなっている。 経営上の問題 (複数回答) では、「生産・受注・売上げ不振」 (57.6%) の割合が特に高く、以下「先行き見通し難」 (36.4%)、「人材不足」 (29.9%) と続いている。
<p>非製造業 計</p>	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年7～9月期の業況判断BSIは▲47.4と、同4～6月期 (▲60.1) から12.7ポイント改善し、続く令和2年10～12月期は▲43.1と、さらに4.3ポイント改善した。足元の令和3年1～3月期は▲56.7と、令和2年10～12月期から13.6ポイント悪化する見込みとなっている。先行きについてみると、令和3年4～6月期は▲54.2と、同1～3月期から2.5ポイント改善するものの、依然低水準で推移する見通しとなっている。 今期の生産・売上BSIは▲31.8と、前期 (▲38.3) から6.5ポイント上昇した。来期は▲37.6と、今期から5.8ポイント低下する見込みとなっている。 今期の仕入価格BSIは2.5と、前期 (4.7) から2.2ポイント低下した。今期の販売価格BSIは▲8.4と、前期 (▲15.2) から6.8ポイント上昇した。 今期の資金繰りBSIは▲22.5と、前期 (▲28.3) から5.8ポイント改善した。来期は▲26.5と、今期から4.0ポイント悪化する見込みとなっている。 令和2年度における設備投資の実施事業所割合は26.7%と、前年度 (21.9%) から4.8ポイント上昇する見込みとなっている。 経営上の問題 (複数回答) では、「生産・受注・売上げ不振」 (42.0%) の割合が最も高く、以下「人材不足」 (36.6%)、「先行き見通し難」 (33.8%) と続いている。
<p>建設業</p>	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年7～9月期の業況判断BSIは▲32.9と、同4～6月期 (▲52.0) から19.1ポイント改善し、続く令和2年10～12月期は▲26.2と、さらに6.7ポイント改善した。足元の令和3年1～3月期は▲43.9と、令和2年10～12月期から17.7ポイント悪化する見込みとなっている。先行きについてみると、令和3年4～6月期は▲48.2と、同1～3月期からさらに4.3ポイント悪化し、低水準で推移する見通しとなっている。 今期の生産・売上BSIは▲28.7と、前期 (▲42.4) から13.7ポイント上昇した。来期は▲32.3と、今期から3.6ポイント低下する見込みとなっている。 今期の受注BSIは▲33.5と、前期 (▲55.1) から21.6ポイント大幅に上昇した。来期は▲49.4と、今期から15.9ポイント低下する見込みとなっている。 今期の仕入価格BSIは12.8と、前期 (12.2) からほぼ同水準で推移した。今期の販売価格BSIは▲12.2と、前期 (▲14.8) から2.6ポイント上昇した。 今期の資金繰りBSIは▲15.3と、前期 (▲30.1) から14.8ポイント改善した。来期は▲23.2と、今期から7.9ポイント悪化する見込みとなっている。 令和2年度における設備投資の実施事業所割合は27.6%と、前年度 (26.6%) とほぼ同水準で推移する見込みとなっている。 経営上の問題 (複数回答) では、「人材不足」 (54.3%) の割合が最も高く、続いて「生産・受注・売上げ不振」 (43.9%)、「労働力不足」 (40.2%) となっている。

非製造業	運輸・通信業	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年7～9月期の業況判断BSIは▲50.9と、同4～6月期（▲54.4）から3.5ポイント改善し、続く令和2年10～12月期は▲49.0と、さらに1.9ポイント改善した。足元の令和3年1～3月期は▲55.6と、令和2年10～12月期から6.6ポイント悪化する見込みとなっている。先行きについてみると、令和3年4～6月期は▲51.0と、同1～3月期から4.6ポイント改善するものの、依然低水準で推移する見通しとなっている。 今期の生産・売上BSIは▲28.3と、前期（▲33.6）から5.3ポイント上昇した。来期は▲32.1と、今期から3.8ポイント低下する見込みとなっている。 今期の仕入価格BSIは▲11.3と、前期（▲3.2）から8.1ポイント低下した。今期の販売価格BSIは▲9.5と、前期（▲4.8）から4.7ポイント低下した。 今期の資金繰りBSIは▲16.0と、前期（▲18.4）から2.4ポイント改善した。来期は▲18.9と、今期から2.9ポイント悪化する見込みとなっている。 令和2年度における設備投資の実施事業所割合は34.9%と、前年度（28.6%）から6.3ポイント上昇する見込みとなっている。 経営上の問題（複数回答）では、「人材不足」（37.7%）と「生産・受注・売上げ不振」（36.8%）の割合がともに3割を超えている。続いて「先行き見通し難」（28.3%）となっている。
	卸・小売業	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年7～9月期の業況判断BSIは▲47.5と、同4～6月期（▲59.1）から11.6ポイント改善し、続く令和2年10～12月期は▲46.4と、わずかながら改善した。足元の令和3年1～3月期は▲66.0と、令和2年10～12月期から19.6ポイント悪化する見込みとなっている。先行きについてみると、令和3年4～6月期は▲57.7と、同1～3月期から8.3ポイント改善するものの、依然低水準で推移する見通しとなっている。 今期の生産・売上BSIは▲37.1と、前期（▲39.1）から2.0ポイント上昇した。来期は▲45.3と、今期から8.2ポイント低下する見込みとなっている。 今期の仕入価格BSIは5.2と、前期（▲7.8）から13.0ポイント上昇し、プラスに転じた。今期の販売価格BSIは▲4.1と、前期（▲26.9）から22.8ポイント大幅に上昇した。 今期の資金繰りBSIは▲25.8と、前期（▲30.5）から4.7ポイント改善した。来期は▲24.7と、今期からわずかに改善する見込みとなっている。 令和2年度における設備投資の実施事業所割合は20.5%と、前年度（16.7%）から3.8ポイント上昇する見込みとなっている。 経営上の問題（複数回答）では、「生産・受注・売上げ不振」（52.6%）の割合が特に高く、以下「先行き見通し難」（33.0%）、「人材不足」（29.9%）と続いている。
	飲食・宿泊業	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年7～9月期の業況判断BSIは▲82.4と、同4～6月期（▲92.0）から9.6ポイント改善し、続く令和2年10～12月期は▲73.6と、さらに8.8ポイント改善した。足元の令和3年1～3月期は▲90.1と、令和2年10～12月期から16.5ポイント悪化する見込みとなっている。先行きについてみると、令和3年4～6月期は▲82.4と、同1～3月期から7.7ポイント改善するものの、極めて低水準で推移する見通しとなっている。 今期の生産・売上BSIは▲49.4と、前期（▲51.0）から1.6ポイント上昇した。来期は▲56.0と、今期から6.6ポイント低下する見込みとなっている。 今期の仕入価格BSIは▲7.7と、前期（15.0）から22.7ポイント大幅に低下し、マイナスに転じた。今期の販売価格BSIは▲15.4と、前期（▲20.0）から4.6ポイント上昇した。 今期の資金繰りBSIは▲42.9と、前期（▲49.0）から6.1ポイント改善した。来期は▲46.2と、今期から3.3ポイント悪化する見込みとなっている。 令和2年度における設備投資の実施事業所割合は38.9%と、前年度（16.2%）から22.7ポイント大幅に上昇する見込みとなっている。 経営上の問題（複数回答）では、「先行き見通し難」（48.4%）と「生産・受注・売上げ不振」（46.2%）の割合が特に高く、続いて「資金繰り難」（24.2%）となっている。
	サービス業	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年7～9月期の業況判断BSIは▲40.5と、同4～6月期（▲55.9）から15.4ポイント改善し、続く令和2年10～12月期は▲37.6と、さらに2.9ポイント改善した。足元の令和3年1～3月期は▲46.9と、令和2年10～12月期から9.3ポイント悪化する見込みとなっている。先行きについてみると、令和3年4～6月期は▲45.0と、同1～3月期から1.9ポイント改善するものの、低水準で推移する見通しとなっている。 今期の生産・売上BSIは▲24.8と、前期（▲29.8）から5.0ポイント上昇した。来期は▲31.8と、今期から7.0ポイント低下する見込みとなっている。 今期の仕入価格BSIは5.2と、前期（4.3）からほぼ同水準で推移した。今期の販売価格BSIは▲2.8と、前期（▲12.8）から10.0ポイント上昇した。 今期の資金繰りBSIは▲20.8と、前期（▲20.7）からほぼ同水準で推移した。来期は▲24.9と、今期から4.1ポイント悪化する見込みとなっている。 令和2年度における設備投資の実施事業所割合は18.7%と、前年度（19.3%）とほぼ同水準で推移する見込みとなっている。 経営上の問題（複数回答）では、「生産・受注・売上げ不振」（35.3%）の割合が最も高く、以下「人材不足」（31.8%）、「先行き見通し難」（28.9%）と続いている。

(13)事業所、業界の動向

1. 製造業

<食料品・飲料>

- ・主力の菓子製品に対する“巣ごもり需要”を取り込めたことから、業況は堅調に推移している。（菓子製造）
- ・新型コロナウイルス感染症（以下、感染症）拡大の影響で観光客数が大幅に減少しており、売上は低調となっている。今後も見通しは立っておらず、令和3年度の売上はさらに悪化する見込みである。（和菓子製造）
- ・“巣ごもり需要”の広がりを受けて、生菓子の売上が増加している。（洋菓子製造）
- ・毎年、賃金や原材料などの仕入代金、その他諸々コストが上昇しているが、販売価格への転嫁が進まず、利益の確保が困難となっている。（味噌製造）
- ・昨年9月からの「GO TOキャンペーン」にともない多少受注は増えたが、同キャンペーンの延期、緊急事態宣言の再発出などの影響から、受注キャンセル・在庫過多に陥った。（業務用食品製造）
- ・昨年の秋頃まで飲食店の売上減少の影響から当社の受注は減少していた。年末にはやや回復したものの、足元の受注は再び減少している。（中華麺製造）
- ・感染症拡大の影響により売上は減少している。今後は包装材など資材価格の上昇により採算悪化が懸念される。（牛乳・乳製品製造）
- ・感染症拡大の影響により販売不振が続いており、業況は厳しい状況にある。（醤油製造）
- ・食パンブームにより売上が徐々に回復していた矢先に、感染症拡大の影響で学校の休校が相次いだため売上は低調に推移している。（パン製造）

<繊維・衣服>

- ・感染症拡大の影響により昨年夏までの受注量は低調だったが、秋以降はシェードやオーニングテントなどの主力商品の販売が堅調に推移しており、今期の業況は前年並みを維持できる見込みである。（布製品製造）
- ・世界各国での感染症拡大を受け、海外で生産されていたものが国内帰帰したこともあり、受注量は想定したほど減少しなかった。（ニット製品製造）

<家具・装備品>

- ・感染症拡大の影響で個人消費がまったく振るわない。受注・販売は厳しい状況が続いている。（建具製造）
- ・取引先からの受注がほとんどなくなり、業況は極めて厳しい状況にある。（木型製造）
- ・昨年前半は前年並みの販売を維持できたが、後半は感染症拡大の影響を大きく受けたため、足元の業況は厳しい状況にある。（家具製造）

<窯業・土石>

- ・感染症拡大を受けて業界全体で受注量が減少するなか、価格競争に拍車がかかっており、受注・採算は厳しい状況にある。（生コンクリート製造）

<印刷・同関連>

- ・感染症拡大の影響による受注減に加え、ユーザー側の環境配慮への対策からPOPシールなどの受注減があり、業況は厳しい状況にある。（シール印刷業）
- ・主要な取引先である飲食店向けの印刷物の受注減少、イベント関連が中止となり、業況は厳しい状況が続いている。（カタログ・パンフレット印刷業）
- ・感染症拡大の影響により各種イベントが中止となったことから関連の印刷物の受注が激減し、業績が落ち込んでいる。今後の見通しも不透明な点が多く、厳しい状況が続くものと思われる。（総合印刷業）

<金属製品>

- ・中国の国内需要が回復傾向にあることから、今後の業況は改善が見込まれる。（製缶板金加工業）
- ・競合他社との価格競争等により受注・売上は厳しい状況が続いていたが、新製品投入により足元の受注は持ち直しつつある。（集塵箱製造）
- ・緊急事態宣言の発出等を受けて、取引先への営業訪問に支障が生じており、新たな需要の掘り起こしが低調となっている。（金網加工品製造）
- ・感染症拡大の影響を受けて受注が減少するなか、原材料となる鋼材価格が今春より値上りする見込みとなっている。需要は低調に推移しており、価格転嫁できるかどうかわからない。（製缶板金業）
- ・取引先との打合せが十分に行うことができず、受注・生産時期および納期が来年度以降に繰り下がった。（水処理機器製造）
- ・感染症拡大や東京五輪の開催延期などにより民間の建築需要が低下している。そのため主力の高層建築物向け資材の受注・販売が不振であった。（配管資材製造）
- ・感染症拡大の影響により、受注・売上ともに厳しい状況にある。先行きはまったく見通せない（金属ネジ製造）

<はん用・生産用・業務用機械>

- ・感染症拡大の影響から、昨年3月以降は取引先からの引き合いがほとんどなくなり、売上は大幅に減少している。(精密ゴム金型製造)
- ・昨年9月頃まではそれまでの受注残により何とか売上を確保できたが、10月以降は新規受注が大きく減少したため業況は厳しい状況にある。(水中ポンプ製造)

<輸送用機械>

- ・感染症拡大の影響で自動車・医療分野向けの受注は若干減少しているが、半導体分野の受注が堅調なことから売上は何とか前年並みを維持している。(自動車向け精密部品製造)
- ・感染症拡大の影響で見込み先の発注動向が判断しづらくなっている。また、資機材の仕入価格が上昇傾向にあるが、販売価格への転嫁が難しく採算面は厳しい状況にある。(鋼船舶製造)
- ・昨年は展示会等が相次いで中止となったことから受注・販売は低調であった。足元では、徐々にではあるが展示会が開催されており、受注はわずかながら増加している。(キャンピングカー製造)

<その他製造業>

- ・感染症拡大の影響で昨年12月まで受注は減少していた。今年春以降は首都圏での再開発案件が動き出す計画であることから受注の増加が期待される。(鉄骨加工製造)
- ・昨年の春以降、各種イベントや会合が激減しており、業況は厳しい状況が続いている。(看板製作)
- ・県外の百貨店への販売機会がすべて無くなり、売上は激減した。先行きも感染症が収束しない限り、県外への営業活動は難しく、経営困難に陥る懸念がある。(漆器製品製造)
- ・デザート容器と除菌剤容器部品の受注により、業況は堅調に推移している。(各種プラスチック容器製造)

2.非製造業

<建設業>

- ・高速道路のリニューアル工事を受注できたことから売上は前年並みを維持しているが、人件費の上昇により採算面は悪化している。(橋梁建設業)
- ・県内需要が少ないため県外への営業活動を模索しているが、感染症拡大の影響により思うような活動ができずにいる。加えて労働力不足のため営業活動に影響を及ぼしている。(杭設置工事業)
- ・昨年7月から受注は増加したが、外注工賃の増加や資材価格の上昇などにより、採算面は厳しい状況にある。(鉄筋工事業)
- ・年末年始の降雪で昨年には無かった除雪作業等があり、冬期事業の売上が増加している。(道路維持・補修業)
- ・大規模工事の受注減少により昨年10月まで売上は減少していたが、施工条件の良好な工事、原価管理の徹底などにより、今期の業況は改善が見込まれる。(建設業)
- ・県内での受注減を補うために、関東、関西など県外の取引先開拓に向けて人材をシフトしたが、受注量は安定していない。(電気設備工事業)
- ・感染症拡大の影響により建物内に立ち入り作業することが困難なため、新たな受注の確保が難しい状況にある。そのため業況は依然として厳しい状況が続いている。(内装工事業)
- ・人材不足のため、求人募集は常時行っているが応募がない。そのため受注できないケースが増えている。(土木工事業)
- ・受注確保に向け、本来の業務以外の工種に取り組んだが、外注に依頼するケースが多くなり採算面は低調となっている。(建設工事業)
- ・感染症拡大の影響により取引先の経営悪化が懸念されるため、受注の減少が見込まれる。(造園業)

<卸売業>

- ・一昨年に受注した大型案件（学校空調設備施工）の反動により、昨年前半までは売上が減少していた。後半以降は複数の業務用空調の大型案件を受注できたため、業況は改善傾向にある。（住宅設備機器卸）
- ・業務用食品を飲食店を中心に販売しているが、感染症拡大の影響により外食産業全般が低迷しており、当社の売上も低調となっている。（業務用食品卸）
- ・主要な取引先である飲食業者の売上激減の影響を受けて、当社の売上も大きく減少している。（水産物卸）
- ・感染症対策の関連商品の売上が増加したことで業況は堅調に推移している。一方、販売増加にともないメーカー側の欠品が相次いでおり、販売在庫が減少している。（家庭用品卸）
- ・感染症拡大の影響で、主力取引先のレストラン、洋食店、ラーメン店といった飲食店が廃業または営業を休止しているため、売上は低調に推移している。（食肉卸）
- ・感染症拡大にともない、飲酒・宿泊客の減少及びイベント・会合等の中止が重なり、売上は低水準で推移している。（酒類・飲料卸）
- ・緊急事態宣言の発出を受けて、見込み先を含め顧客を多く抱える関東圏での営業活動に支障が生じており、受注獲得が困難な状況となっている。（溶接機器・溶接材料卸）

<小売業>

- ・飲食店への販売は不振が続いているが、“巣ごもり需要”の取り込みから店頭販売は堅調に推移している。（酒類販売）
- ・感染症拡大の影響で客数は減少しているが、客単価は上昇しており、売上全体は増加傾向にある。（コンビニエンスストア）
- ・各種イベントなどの中止や延期の影響から、生花の売上は減少が続いている。（フラワーショップ）
- ・感染症拡大の影響で、顧客との対面販売が難しくなっている。注文を受けた書籍を郵送するための配送料など経費が嵩んでいる。（書籍販売）
- ・不要不急の外出を避ける動きが浸透しているために来店客数は大幅に減少しており、売上は低調な状況が続いている。（中古CD・レコード販売）

<飲食業>

- ・感染症拡大防止への対応策として、大学がリモート授業を行っているため学生を中心に客数が減少している。部活動も行われていないため、売上は低調となっている。（一般食堂）
- ・感染症拡大の影響で、各種イベントや催事が中止または延期となったため、売上が前年比大きく減少している。（仕出し料理）
- ・感染症拡大防止への対応策として取り組んでいる「持ち帰り寿司」の売上はやや増加したものの、来店客数が大幅に減少しているため、業況は低調に推移している。（寿司店）
- ・G o T o E a t 事業の効果もあり、昨年11月には売上が回復したが、その後の感染拡大を受けたG o T o E a t 事業の一時停止により足元の売上は減少傾向にある。（ビュッフェレストラン）
- ・G o T o E a t 事業の効果から昨年末は少し集客が確保できたが、年明け以降、感染者が増えるとともにお客様のキャンセルが少しずつ増えてきており、売上は低調にある。（フレンチレストラン）
- ・緊急事態宣言の影響で売上は大幅に減少したが、持続化給付金等の支援策を活用できたことから資金繰りはやや持ち直した。ただし、足元の売上には改善がみられず、厳しい状況にある。（焼肉店）
- ・感染症拡大防止への対応策として、店内でのライブやイベントを中止したため売上は低調に推移している。昨年11月にG o T o E a t 事業で少し持ち直したが、12月以降、再び悪化している。（喫茶店）
- ・昨年2月末からの感染症拡大の影響により、売上の柱であった夜の宴会、会合が年末までほぼ全てキャンセルとなった。今年に入っても改善の見込みは全く無く、業況は厳しい状況が続いている。（割烹）
- ・売上減少を補うために弁当のテイクアウトを開始した。その後、メニューの見直しやオードブルの取扱強化を図った効果もあり、売上は増加傾向にある。（居酒屋）

<宿泊業>

- ・感染症拡大防止への対策などから、ホテルの強みである大型宴会会の受注がなくなった。さらに少人数の夜の宴会会合も減少となり、業況は厳しさを増している。（ホテル）
- ・不要不急の外出を避けるため県外からの出張者などが減少しており、売上は低調な状況が続いている。先行きの見通しが立たず不安である。（ビジネスホテル）

<運輸業>

- ・ 不要不急の外出自粛の影響もあり、売上は前年比30%の減少となっている。乗務員の精神的なダメージも大きく、先行きが懸念される。(タクシー業)
- ・ 感染症拡大の影響もあり一般貨物の荷動きが鈍化している。(貨物運送業)
- ・ 飲食店の売上減少などにより、全般的にごみ量が減少傾向にある。そのため売上は低調に推移している。(廃棄物運搬業)
- ・ 食品や日用雑貨商品等の運送を中心に取扱いしているため、感染症拡大の影響を大きく受けることはなかった。今後も業況の安定が見込まれる。(一般貨物運送業)
- ・ 宅配需要の増加を背景に受注量が増加しており、売上は好調を維持している。(一般貨物運送業)

<情報通信業>

- ・ 県内の受注減少に加え、首都圏での商談も減少しており、売上は減少傾向にある。(ソフトウェア開発)
- ・ 首都圏での移動制限のため、打合せなど営業活動に支障が生じている。そのため、商談成立まで至らず売上が立たない。(システム開発)
- ・ 感染症拡大の影響による受注減を懸念していたが、相応に確保できており業況は安定している。テレワークで作業可能であり労働力の低下も生じていない。(ソフトウェア開発)
- ・ 主要事業であるローカル局の番組、コマーシャル制作及びイベント等の記録事業が中止となり、売上が減少している。先行きは見通しが立たない。(映像制作)

<その他サービス業>

- ・ 昨年4月までは売上は減少していたが、その後はストレス発散を目的とした来場者が増加しているとみられ、売上は増加傾向にある。(ゴルフ練習場)
- ・ 防災、減災、国土強靱化のための「5か年加速化対策」が閣議決定されたことを受けて、国交省発注事業の増加が期待される。(地質調査業)
- ・ 業況悪化を背景とした店舗、施設、事務所等の休廃業が増え、特に清掃業務の需要が大きく減少している。(ビルメンテナンス業)
- ・ 感染症拡大の影響による企業の業績悪化を受けて、テナントの賃料収入の減少が懸念される。(不動産業)
- ・ 既存顧客の利用が減少したほか、新規顧客の獲得も進まず売上は減少している。先行きの業況も厳しい状況が続く見通し。(スイミングスクール)
- ・ ホテルの稼働率低下にとともに、当社が供給しているリネン品の使用率が低下しており売上は減少傾向ある。(リネンサプライ)
- ・ 外出自粛の影響でコインパーキングを利用するお客様が激減し、売上は減少している。先行きの見通しも立たない状況にある。(駐車場管理)
- ・ 感染症拡大の影響でお客様の来店が減少した。感染症対策のため、お客様が密にならないように予約制にし、時間を調整しているため稼働率は悪化した。(理容業)
- ・ 感染症拡大防止への対応から集客を目的とするイベントやプロモーションの開催が減少しており、業績は低調に推移している。(広告業)
- ・ キャンプ用品やホームセンター向け商品を販売している取引先からの受注が好調に推移している。(商品企画・デザイン業)
- ・ 感染症が拡大するなかであって、警備業は想定したほど大きな影響を受けておらず、売上は例年並みを維持している。(警備業)

4. テーマ別調査結果

—新型コロナウイルス感染症拡大に伴う影響について—

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う影響について、新潟市内の事業所を対象に調査を実施した。

【テーマ別調査回答数】

	標本数	有効回収数	従業者規模区分			回収率
			1～4人	5～19人	20人以上	
総数	2,000	786	259	225	302	39.3%
製造業	333	177	67	48	62	53.2%
非製造業	1,667	609	192	177	240	36.5%
建設業	333	160	44	55	61	48.0%
運輸・通信業	333	103	24	29	50	30.9%
卸・小売業	334	93	23	28	42	27.8%
飲食・宿泊業	333	87	38	25	24	26.1%
サービス業	334	166	63	40	63	49.7%

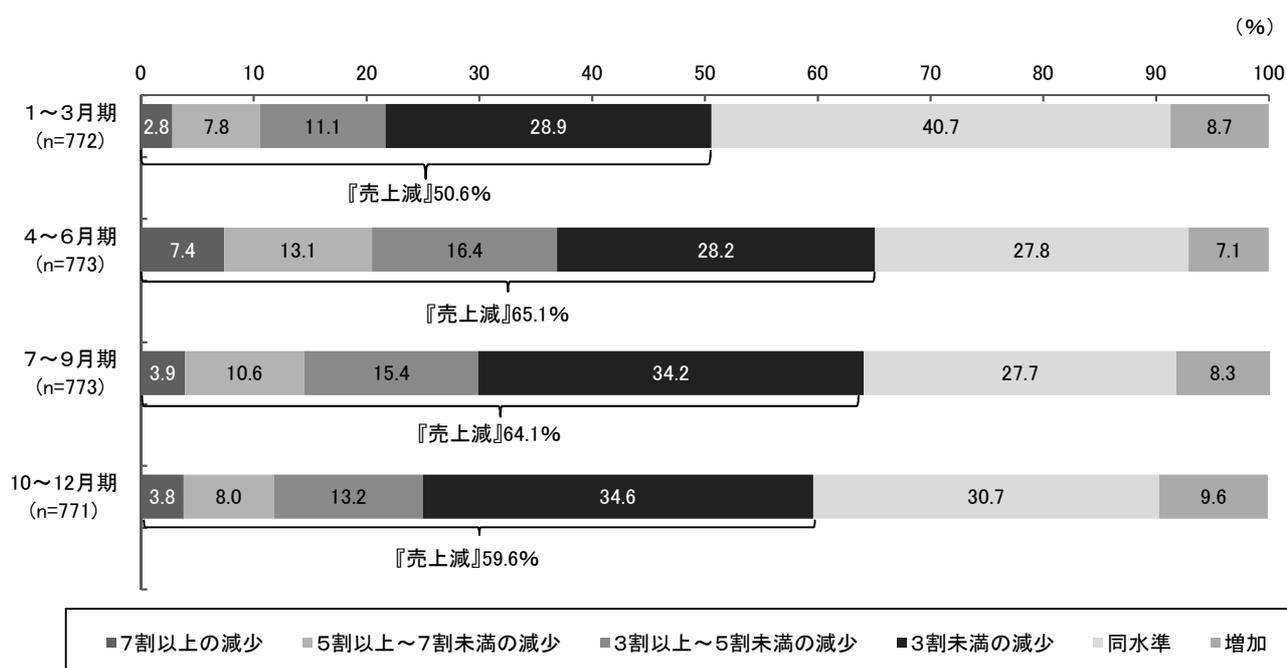
1. 令和2年の四半期ごとの売上高前年同期比推移

ポイント

- 令和2年の四半期ごとの売上高を前年同期比の推移で見ると、『売上減』の割合は「1～3月期」が50.6%、「4～6月期」が65.1%と上昇した後、「7～9月期」が64.1%、「10～12月期」が59.6%と徐々に低下している。

図 1-1 令和2年の四半期ごとの売上高前年同期比推移

(回答割合[無回答を除く])



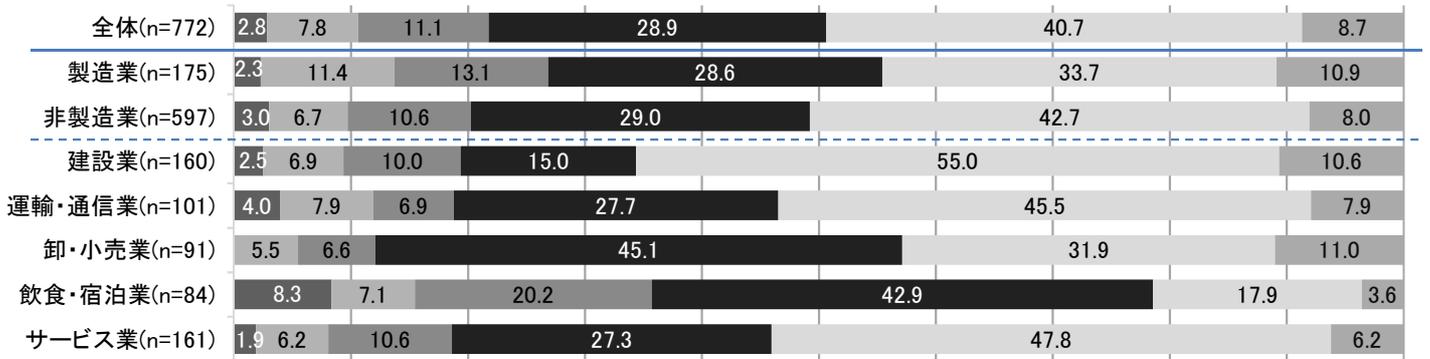
ポイント

- ・業種別にみると、『売上減』の割合は、各期とも非製造業より製造業で高くなっている。
- ・個別業種についてみると、『売上減』の割合は、各期とも飲食・宿泊業が最も高く、建設業が最も低くなっている。

図 1-2 令和2年の四半期ごとの売上高前年同期比推移(業種別)

(%)

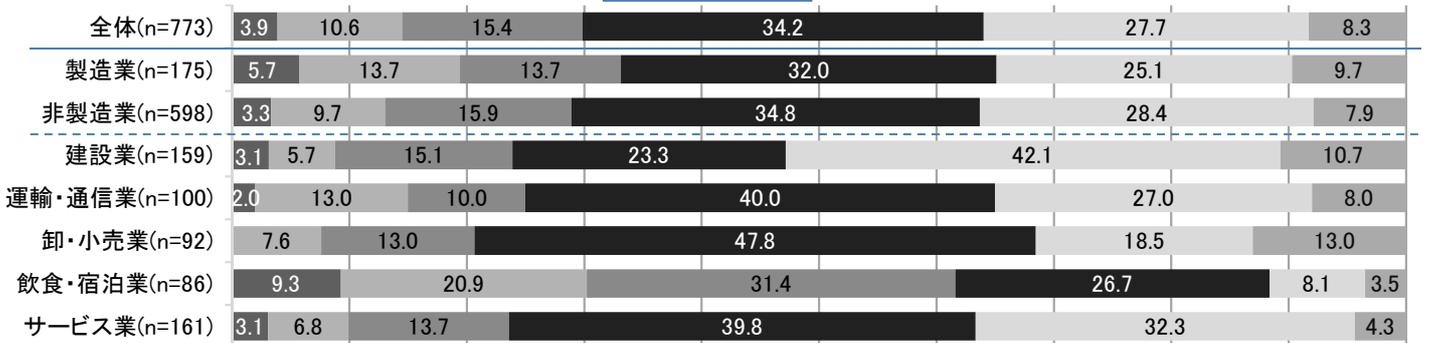
令和2年1～3月



令和2年4～6月



令和2年7～9月



令和2年10～12月



0%

50%

100%

7割以上の減少
 5割以上～7割未満の減少
 3割以上～5割未満の減少
 3割未満の減少
 同水準
 増加

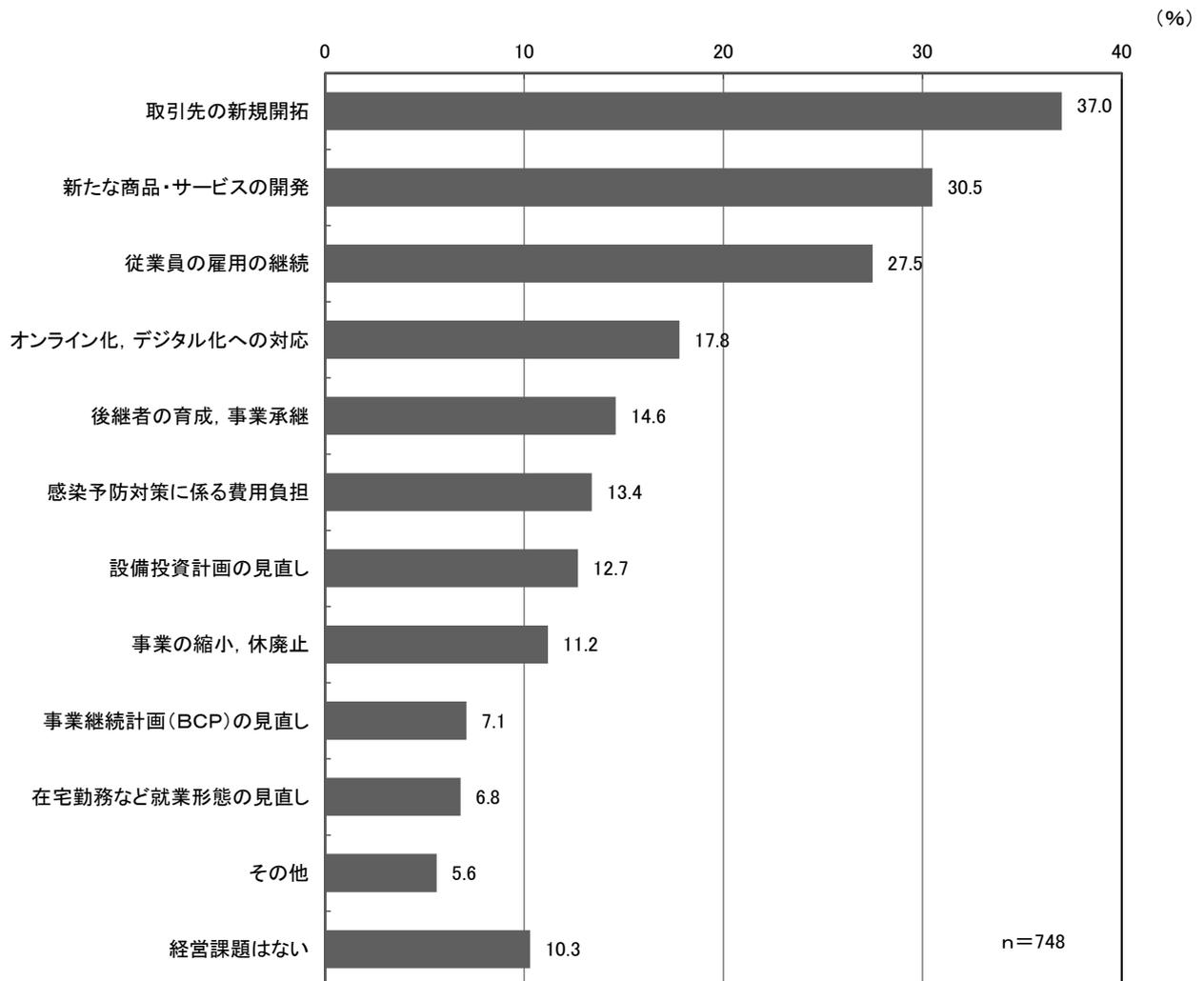
2. 現在の経営課題

ポイント

- ・現在の経営課題を尋ねたところ（複数回答）、「取引先の新規開拓」の割合が37.0%と最も高く、以下「新たな商品・サービスの開発」（30.5%）、「従業員の雇用の継続」（27.5%）などが続いている。
- ・何らかの『経営課題がある』の割合は89.7%となっている。一方、「経営課題はない」は10.3%となっている。

図2 現在の経営課題(複数回答)

(回答割合[無回答を除く])



令和2年度下期 新潟市景況調査【概要版】
(令和2年7月～令和2年12月期)

発行 令和3年2月
新潟市経済部産業政策課
新潟市中央区古町通7番町1010番地 古町ルフル5階
電話 025-226-1610